

播磨灘に夢を託す

—垂下式貝類養殖の取り組み—

室津漁業協同組合
磯 部 公 一

1. 地域の概要

たつの市御津町室津は、東に世界文化遺産姫路城を有する姫路市、西は忠臣蔵で名高い播州赤穂のほぼ中間に位置し、瀬戸内海国立公園の一部をなす美しい自然景観を有する。また、江戸時代には西国大名が参勤交代で江戸へ船で向かう際の上陸・乗船地として栄えにぎわった、長い歴史と伝統を持つ港町である。

地区内には伝統ある町並みが保存されており、画家や写真家、歴史探訪で訪れる観光客が絶えない自慢の町である。(図1、写真1)

2. 漁業の概要

室津漁業協同組合の組合員数は186名で、平成18年度の水揚げは漁獲量約980トン、漁獲金額約8億2,860万円となっている。小型底びき網漁業、船びき網漁業を主に様々な漁業が営まれ、カレイ類、エビ類、イカナゴ、サワラ、ガザミなど多種多様な魚介類が水揚げされ、近年はカキ養殖も盛んに行われている。(図2)

3. 研究・実践活動取組課題選定の動機

漁獲量の減少、魚価の低迷などにより小型底びき網漁業にとって厳しい経営状況が続くなか、手間がかからず安定した収入を見込める、副業的な漁業を探していた。

日頃から、小型底びき網漁業で漁獲される、小さなサイズのアカガイやトリガイを有効利用できないものかと考えていたところ、「京都・丹後とり貝」の養殖現場を視察する機会がきっかけとなり、貝類養殖に取り組むことになった。

4. 研究・実践活動状況及び成果(効果)

平成12年の春、小型底びき網で漁獲された3～4cmのアカガイ、トリガイ、各50個を漁港内の浮棧橋に吊り下げたコンテナに収容し、養殖試験を開始した。

夏場の高水温の影響などでトリガイは斃死したが、アカガイは翌年の春に8～9cm、80～100g/個に成長し、販売することができた。(歩留まり80～90%)

平成13年からは湾内に筏を設置し、筏からコンテナを吊り下げる筏垂下式養殖法を導入することとした。

平成14年度からは、中核的漁業者協業体育成事業を活用し、筏を増設するとともに、収容密度の比較試験や、省力化に重点をおいた施設改良など、試行錯誤を繰り返し、現在の養殖方法を確立させた。(写真2、3、4)

しかし、春から養殖を開始し出荷が翌年の春となるため、小型底びき網漁業の繁忙期である夏場にコンテナ掃除などの作業手間がかかること、また、安定的に種貝が確保できないことなどが課題であった。

そのような中、コンテナ内に3～5mmの天然アサリが着底していることが分かり、同じ養殖方法で他の貝類も成長する可能性が高いこと、できるだけ多種類の貝類養殖を行うことによりリスク分散が図れることなどから、平成15年度にはアカガイ、トリガイに加え、アサリ養殖を開始することとなった。

9月に2～3gのアサリ種貝をコンテナに収容し、養殖を開始したところ、翌年の春には出荷サイズにまで成長した。さらに、種貝のサイズを大きくすることで、春から初夏の出荷シーズン中に2回転の出荷が可能となった。(図3、写真5)

また、アサリは他の貝類に比べ、比較的容易に種貝が確保できることから、安定的な出荷が可能となり、出荷量は年々増加した。(図4)

現在では、高い品質に加え、まとまった量を安定的に供給できることから、市場での評価も高く、販売先の確保、単価の維持につながっている。

5. 波及効果

青年部員2名で始めたこの取り組みが、一定の成果をあげ軌道にのったことで、漁協内部で垂下式貝類養殖が副業として認知され、今では14名の漁業者が実施し、新規参入希望の声もあがっている。

そして、県内はもちろん、他県から視察が訪れるまでになり、現在では近隣漁協に普及し、取り組みが始められるようになった。

6. 今後の課題や計画と問題点

湾内の限られた漁場(筏台数)で、多くの漁業者が最大限の収入を得られるよう、さらに改良を加え、効率的で収益性の高い養殖方法を確立させるとともに、静穏度の低い湾外海域でも可能な養殖方法を検討していきたい。

また、現在は種貝の大部分を他県産に頼っているが、種貝の安定確保の観点からも、今後は行政機関と連携をとりながら、種貝の生産に取り組み、「純兵庫県産貝類」の養殖を目指していきたい。

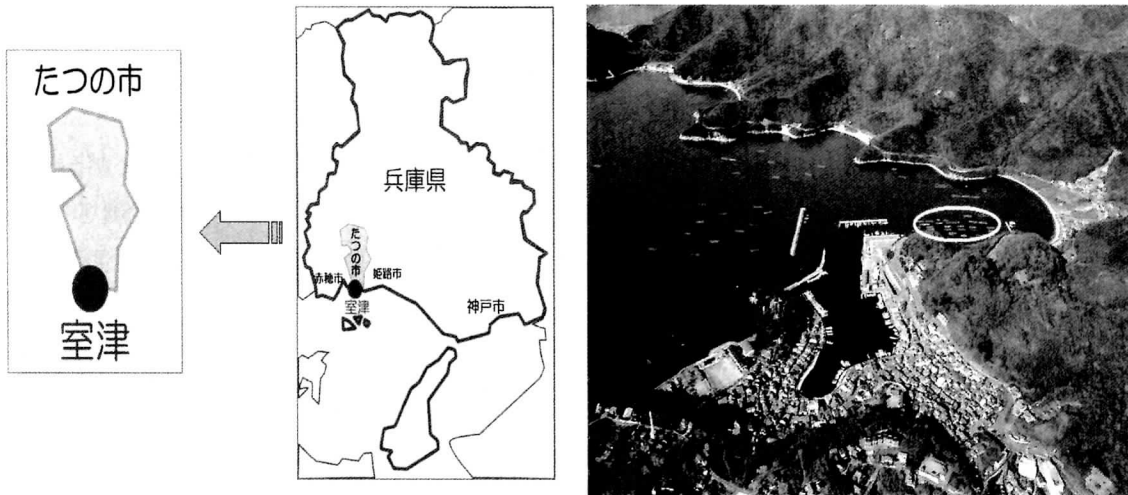


図1 たつの市御津町室津

写真1 室津漁港

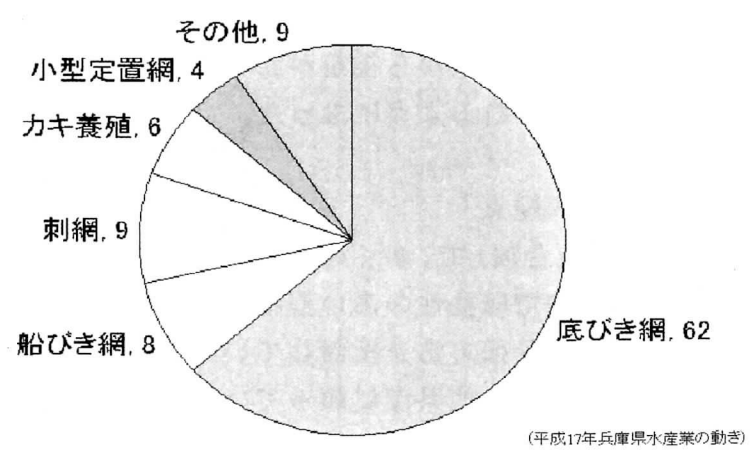


図2 漁業種類別経営体数



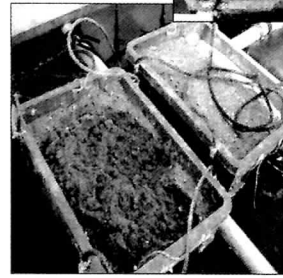
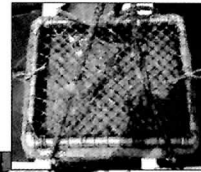
イカダ垂下式

5.5m × 5.5m

コンテナ

150~170個 台

写真2 養殖方法 (イカダ)



45cm × 32cm × 11cm

45cm × 32cm × 16cm

収容密度

アカガイ 15~20個

アサリ 200~250個

写真3 養殖方法 (コンテナ)



写真4 養殖方法 (作業風景)

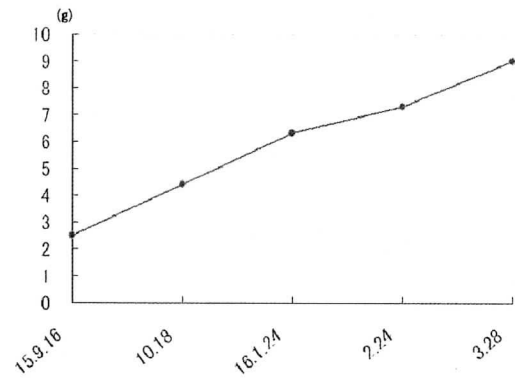


図3 アサリ成長

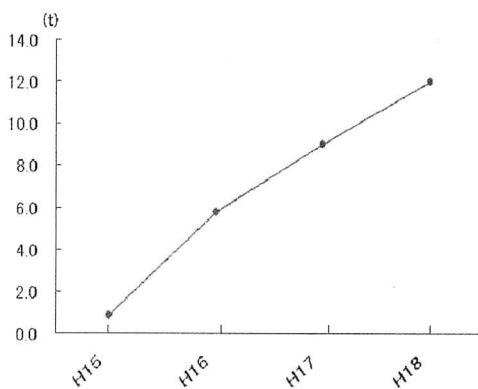
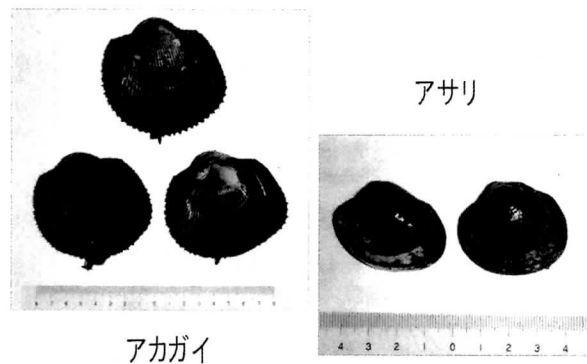


図4 アサリ出荷量



アカガイ

アサリ

写真5 出荷サイズ